

行ったり戻ったりした人と来た人の話

先週の土曜日に会った二人の人の話＝名古屋つながりです

何をするにしても、自分の判断が大切と言うことに・・・

「自立支援求めて」と「生活保護地の移動期待」

先週土曜日、夜間学校ニュース配布中に二人の人の声がかりました。

一人は、若い人で、シエルターで働きながら自立支援を受けたいということでした。

ここしばらく朝の夜間学校ニュース配布に参加している井上さん（以前輪番登録者、現在生活保護受給、仲間のつながりづくりを模索中）に「お仕事支援部」への案内を頼んだのですが、案内途中に聞いたところによると、名古屋から飲まず食わず、5日間かけてセンターに着いた人だったということです。

もう一人は、私と同じ60歳、11月上旬に保護費をもらい家賃も納めているが、事情でアパートに帰りづらくなり、友達に誘われて名古屋で生保申請するつもりで名古屋へ。名古屋から西成区へ電話で保護廃止の連絡。担当者は、直接相談に来るように言ったそうですが、もう名古屋にいたので、ともかく廃止すると伝えて電話を切ったそうです。

名古屋ではうまくいかず、再び大阪へ。友達が、今

度は、京都でというので、いわれるままに京都の役所へ生活保護の話をしにいったが、京都でも受けてもらえず、再び大阪に戻り、「どうしよう」という事になった次第。

生活保護のお金は、原則二重払いはありません。それは他都市に行っても同じ事です。

この人の場合は、本当に保護が廃止になっているかどうかの確認が、話を整理する第一歩。それから、次をどうするかということになります。

月末までの生活をどうするか、アパートへ戻れない「事情」をどう解決するか、「友達依存症」とも言うべき人の言いなりになる傾向をどう直すか。

野宿や夜間宿所利用で頑張っている人にすれば、

「そんなん、ほっとかんかい」ということかもしれない。せん。勿論、具体的に何ができるわけではなく、「話をきいてもらって、少し気が軽くなった」といわれるくらいのもですが、結構、世の中、そういう機能が必要なのようです。アナタも、生活保護を受けて、話の語り部でなく、話の聞き名人になって社会貢献を！